

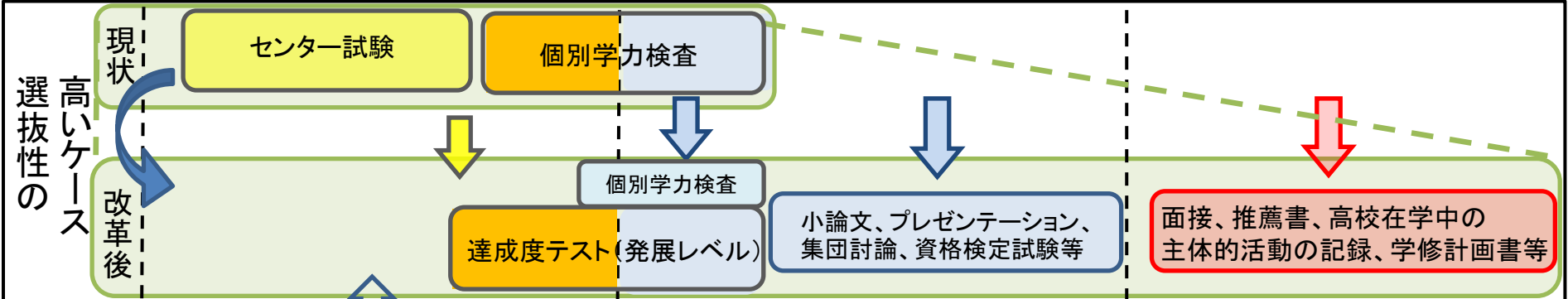
大学入学者選抜の転換のイメージ

一般入試・推薦入試・AO入試の区分を見直し、入学者選抜全体において、多面的・総合的に評価する総合型選抜へ抜本的に改革

知識・技能

知識・技能を活用する力

意欲・経験・多様性



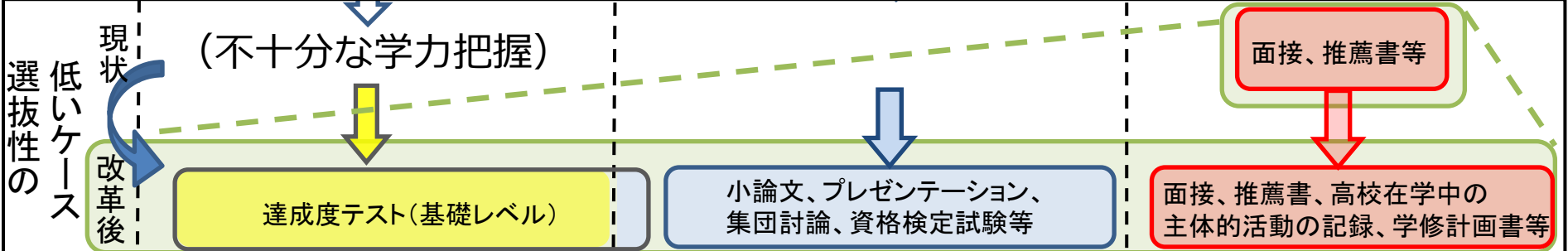
高いケース
選抜性の
改革後

必要な
施策

- 知識・技能およびこれらを活用する力を測定するため、合教科・科目型や総合型の問題を導入した達成度テスト(発展レベル)の創設。
- 基礎的な学習の達成度を把握するための達成度テスト(基礎レベル)の創設。
- 基礎レベル等による学力把握措置の実施をルール化。

- 国際バカロレア、アドバンスト・プレースメント、TOEFL等の活用による個別学力検査の代替の促進。
- 小論文等で測定できる能力の明確化、新たな評価手法の開発。
- 丁寧な選抜を実施する大学への財政支援。

- 高校から大学への志願者に関する情報提供の充実。
- 様々な学習成果、主体的活動の記録を評価する枠組みの整備。
- 各種大会や顕彰制度の普及拡大。



低いケース
選抜性の
改革後

アドミッション・ポリシーの明確化

アドミッション・ポリシーにおいて、以下のような大学入学志願者に求める能力を明確化するとともに、それぞれについてどのような手段を用いて評価するのかを明らかにすることとする。

評価する能力

基礎的・基本的な知識・技能

知識・技能を活用する力
(思考力、判断力、表現力等)

主体的に学習に取り組む意欲・態度、志

「公共心」「倫理観」、他者への思いやり等の豊かな心

チームワーク、リーダーシップ

卓越した能力、個性(多様性)

評価する方法

達成度テスト(基礎レベル)

達成度テスト(発展レベル)

小論文、レポート等

資格・検定試験等(TOEFL等)、各種大会や顕彰の記録

学習計画書、自己アピール(志望理由書等)、課題レポート等

調査書、推薦書、評価書、ボランティア・部活動等の活動歴

面接、集団討論、プレゼンテーション、模擬授業等

各大学において、左記の方法から
①活用する評価方法及び比重
②要求するレベル
を決定・公表

東京大学の推薦入試(平成28年度入試より導入予定)の例

[概要]

- ・ 全10学部で募集。募集人員は各学部で設定するが、全体として100名程度
- ・ 各学校からの推薦は男女各1名の合計2名まで(複数学部への推薦不可)
- ・ 各学部が定める推薦要件に該当し、平成28年度大学入試センター試験のうち、大学が定める教科・科目の全てを受験した者
- ・ 出願書類と面接等の審査結果及び大学入試センター試験の成績を総合的に評価して決定。
- ・ **大学入試センター試験**は、入学後の学修を円滑に行い得る基礎学力を有しているかどうかを判断する観点から、**8割以上**の得点であることを目安とする。

[各学部の例1:法学部(募集人員:10名程度)]

推薦要件: **高校の学業成績(各校の上位概ね5%以内)**や問題発見能力、課題設定能力を有すること、異なる文化的背景等を有する他者とのコミュニケーション能力に優れていることなどを要求

出願書類: **調査書**のほか、**推薦要件に合致することを証明する書類**(例えば、在学中に執筆した論文で志願者の問題発見能力・課題設定能力を証明するもの、表彰状や新聞記事等の社会に貢献する活動の内容を証明する資料、留学経験等の志願者が異なる文化的背景や価値観への理解を有することを示す資料、国際バカロレアやSATなど国際通用生のある入学資格試験における優秀な成績を証明する資料、TOEFLや英検、IELTSなどの外国語に関する語学力の証明書など)を要求

選抜方法: **提出書類**のほか、**グループディスカッション**や**個別面接**、**大学入試センター試験の結果**を総合的に評価

[各学部の例2:経済学部(募集人員:10名程度)]

推薦要件: 高等学校等でいずれかの分野における飛び抜けた才能を有すること、他者との対話性に優れ、経済分野に強い関心を有すること、高等学校等において英語、数学、地理歴史・公民のいずれかの2教科において成績が優秀であること。(地理歴史・公民はいずれかの1科目のみを対象)

提出書類: **調査書**のほか、**推薦要件に合致することを証明する書類**(例えば、数学オリンピックなどの科学オリンピックで顕著な成績をあげたことを示すもの、TOEFLや英検、IELTSなどの英語その他の外国語に関する語学力の試験において高得点を取ったことを示すもの、全国レベルの大会・コンクールでの入賞記録、留学を含む様々な国際的活動で、その内容が第三者によって高く評価されたものについて、その詳細や評価内容を記した文書など)を要求

選抜方法: **提出書類**のほか、**個別面接**(面接時に課題遂行能力を試すための課題を課す場合あり)、**大学入試センター試験の結果**を総合的に評価

京都大学の特色入試(平成28年度入試より導入予定)の例

[概要]

- ・ 全10学部で募集。募集人員は各学部で設定するが、全体として100名程度
- ・ 高等学校における幅広い学習に裏付けられた**総合力**と**学ぶ力**及び**高い志**を評価し、個々の学部が定めたカリキュラムと教育コースを受けるにふさわしい**学力**と**意欲**を備えた者を選抜
- ・ 第一次選考で高大接続を重んじる観点から、志願者自らの学ぶ意欲や志について書類選考を通じて評価。
- ・ 第二次選考では、各学部において、学部が必要とする基礎学力や教育コースへの適合力を測定する能力測定考査ならびに論文試験、面接試験等を組み合わせて、望ましい人材の選抜を丁寧に実施。
- ・ 大学入試センター試験は、多くの場合、基礎学力を把握するために利用。

[各学部の例1:教育学部(募集人員:6名)]<学力型AO>

出願要件: **評定平均値4.3以上**で大学入試センター試験で指定した教科・科目を受験する者

出願書類: **調査書**、**学びの報告書**、**学びの設計書**

選抜方法: 第一次選考は、調査書、**学びの報告書**、**学びの設計書**により選考

第二次選考は、第一次選考に合格した者に対して、**課題**と**口頭試問**を行い、その成績と提出書類と総合して選考

課題では、読解力、論理的・批判的思考力、問題解決能力などについて評価

口頭試問では、探究心と洞察力、コミュニケーション能力などについて評価

第二次選考の配点は、課題50点、口頭試問50点の計100点

最終選考は、第二次選考合格者で、**大学入試センターの得点の合計が900点満点中80%以上の者**を合格者とする。

[各学部の例2:工学部電気電子工学科(募集人員:5名)]<推薦>

推薦要件: 人格・識見ともに特段に優れている者

特筆すべき能力、リーダーシップと高い基礎力を有する者

授業科目の一環として実施した課題研究や科学に関する課外活動において顕著な実績をあげた者

大学入試センター試験で指定した教科・科目を受験する者

の全てをみたとすこと

提出書類: **調査書**、**推薦書**、**学びの設計書**、**顕著な活動実績の概要**

選抜方法: **提出書類**に重点を置き、A・B・C・Dの4段階で評価し、**A評価**の者のうち、**大学入試センター試験の合計得点が900点満点中80%を越えた者**を合格者とする。

多面的・総合的な選抜を行っている国内の大学例

1. 東北大学工学部:AO入試 Ⅱ期

[募集人員]

- ・ 104名（平成26年度入試）

[出願要件等]

- ・ 調査書の学習成績概評がA段階に属する者又は高等学校の教科の評定平均値(理数系教科4.5以上且つ全体4.0以上)を要求

[出願書類等]

- ・ **活動報告書**(主要な活動の経歴、成果等を志願者が作成し、記載事項を学校長等が確認したもの、様々な分野や領域における活動の成果や修得した能力を示す書類(表彰状、新聞等の記事、論文、英検等の証明書、各種資格取得証明書等)があれば添付)、**志願理由書**、**志願者評価書**・**調査書**(出身(在学)学校長が作成したもの)の提出を要求

[合否判定方式]

- ・ 志願者数が募集人員を大幅に上回る場合は、出願書類による第1次選抜を実施
- ・ **出願書類**(210点)、**小論文試験**(240点)、**面接試験**(150点)を総合的、多面的に評価(計600点満点)
- ・ 小論文試験では、論理的思考能力、独創性、表現力、作文能力、英文読解力、理数系の基礎的理解度などについて評価

2. 慶應義塾大学総合政策学部・環境情報学部:

自由応募入試 A方式

[募集人員]

- ・ 各学部100名（平成26年度入試）

[出願要件等]

- ・ 学業を含めたさまざまな活動に積極的に取り組み、その成果が大学が示す項目(研究、創作発表などの活動が社会的に評価されていることや外国語能力やコンピュータ技術等における高度な資格や技術を有していること等)に該当すると自己評価できることなどを要求

[出願書類等]

- ・ **志願者評価**(志願者を客観的に知る立場にある者2名が作成)、**活動報告**(中学卒業後から出願に至るまでの学業・学業外の活動内容について志願者が作成。出願要件の判断に使用。)、**志望理由**・**入学後の学習計画**・**自己アピール**(志望理由とともに文章と自由記述を用いて自由に表現)、**任意資料**(所定の資料だけでは表現しきれないもので、選考にあたり有用と判断した資料)を要求

[合否判定方式]

- ・ **出願書類**をもとに第1次選抜を実施
- ・ 第2次選抜で**面接試験**(30分)を実施

多面的・総合的な選抜を行っている国内の大学例

3. 広島大学工学部:AO入試 II型

[募集人員]

- ・ 15名（平成26年度入試）

[出願要件等]

- ・ 特になし

[出願書類等]

- ・ **自己推薦書**、**志望者評価書**（志願者についてよく知っている成人の第三者（志願者の3親等以内の親族を除く）が作成したもの）、**調査書**の提出を要求

[合否判定方式]

- ・ **小論文試験**（200点）、**面接試験**（100点）及び**出願書類**（100点）の総合点（400点）、**大学入試センター試験の結果**を総合して判定
なお、最終合格者となるには、**大学入試センター試験**で受験を要する教科・科目（3教科5科目）の得点の合計が、概ね**合格基準点（390点）以上**であること（600点満点）。

4. 九州大学21世紀プログラム:AO入試

[募集人員]

- ・ 26名（平成26年度入試）

[出願要件等]

- ・ 特になし
※各学部の実施するAO入試との併願は認めない

[出願書類等]

- ・ **活動歴報告書**（中学時代から出願時までに取り組んだ学校での勉強以外の各種活動等について記述したものを志願者が作成）、**志望理由書**を要求

[合否判定方式]

- ・ 出願書類をもとに第1次選抜を実施
- ・ 第2次選抜で**講義**（3講義、各約50分）に関する**レポート**（各約70分）と**討論**（150分）、**小論文**（270分）及び**面接**（約15分）を課し、提出書類の内容と合わせて総合判定

※H25年度講義題目

- ・ 邪馬台国と考古学-通説と考古学の間-
- ・ 独裁体制はいかに維持されるのか
- ・ The Wonder of Water（水の不思議）

※討論は、講義の論題テーマの3つから2つを選び論題毎にグループ（1グループ 十数名）で討論。

※小論文は、講義・レポートと討論を踏まえ、講義の論題テーマに関連した標題を自ら設定し作成。

九州大学21世紀プログラム選抜スケジュール

第1次選抜

- ◆ 出願時提出資料
 - ◆ 志望理由書(2面)
 - ・志望する理由、自己の適性や抱負
 - ◆ 調査書等(内申書)
 - ◆ 活動歴報告書(2面): 中学からの活動を記載可
 - ・各種活動、表彰、資格等
- ◆ 書類審査
 - ◆ 「AP」や「求める学生像」との合致度合を評価
 - ・理念の理解度等
 - ◆ 試験場施設の関係から3倍程度に絞る (H25年度の例では80名。3.1倍)

第2次選抜

第1日目(土曜日)

9:30-11:30	講義1・レポート1 (120分)	軸が違う3テーマ 講義:約50分 レポート:約70分
12:30-14:30	講義2・レポート2 (120分)	
15:00-17:00	講義3・レポート3 (120分)	

講義や資料に英語を含むことがある

第2日目(日曜日)

9:00-11:30	グループ討論 (150分)	論題は当日朝に提示(“予習”を避けるため)	3つの講義から 2つを選んで討論
12:30-17:00	小論文 (270分)、個人面接	15分/人	

3つの講義のいずれかに関連するテーマを設定して作成

随時別室で休憩可

年度	題目
H20 (2008)	1 大学の社会的機能の変化
	2 住民の視点から FROM THE NATIVE'S POINT OF VIEW
	3 薬と遺伝子
H21 (2009)	1 イエズス会士が観た16世紀の日本
	2 原子力損害賠償法を見直すべきか
	3 作物増収の戦略における植物の機能
H22 (2010)	1 読むことの意義
	2 いまどきの「権力」を考える
	3 南極の地球科学と地球環境変動
H23 (2011)	1 日本における死因究明制度
	2 おとぎ話とジェンダー
	3 学ぶことと働くこと
H24 (2012)	1 放射線と健康の科学
	2 歴史 学問と教科の間
	3 民主主義の根底にあるもの
H25 (2013)	1 「邪馬台国」と考古学 — 通説と考古学の間 —
	2 独裁体制はいかに維持されるのか
	3 The Wonder of Water (水の不思議)